【特集】

歯の健康 みつめ直す

目次 Contents

特集「歯の健康」 2

行政情報便
●秋の叙勲・褒章
●市長ですこんにちは
ほか 18

地域の話題
●NEWS東西南北 22

情報information
●お知らせ
●いどばたプラザ 24

読者の声 28

思えば遠くへ来たもんだ
●柴田康裕さん(横手) 30

巧(たくみ)
●田代博さん(山内) 31

横手遺産
●銀杏の木台の大銀杏(大森) 32

市報 よこて
No.27
2006年11月15日号
11-15

むし歯王国の汚名返上へ
急げ、歯の健康の意識改革

【特集】
みつめ直す
歯の健康

がんによる死亡率や自殺による死亡者数、出生率の低さなど、不名誉な全国１位を数多く記録している秋田県。平成16年度の調査では、12歳児における平均むし歯本数が全国で２番目に悪い数値となった。横手市でも、子どものむし歯率が全国平均を大きく上回り、深刻な問題となっている。
われわれの日常生活の中で、最も身近な存在でありながら、おろそかにされがちな歯の健康。「むし歯王国秋田」の汚名返上へ向けた各年代における取り組みをもとに、歯の健康づくりの現状をリポートする。

全国最低レベルのむし歯県

際立つ秋田っ子の歯の悪さ

平成16年度の調査において、本県の12歳児の１人平均むし歯本数は２・９本。沖縄県に次ぎ全国で２番目に悪いむし歯県となった。これは、永久歯がほぼ生えそろう12歳児の比較だが、３歳児の平均むし歯本数も１人平均２・２本。全国平均の１・２本を大きく上回るとともに、全国で３番目に悪い数値となっており、子どもたちの歯の悪さが際立っている。

また、県内の幼稚園児、小中学生、高校生らを対象に行った平成17年度の学校保健統計調査によると、身長・体重などの体格面では、すべての年齢において全国平均を大きく上回っていて、全国でもトップクラス。その一方で、肥満傾向の割合や、むし歯の罹患率（処置完了者含む）も、幼稚園74・５％、小学校77・８％、中学校74・９％、高校82・４％と、いずれの段階でも全国平均を上回っている。

このようなことから、秋田の子どもたちは、体格はいいものの、肥満やむし歯など、不健康な状態にある子どもが多いと言える。

一生涯つき合う歯 健康への意識改革を

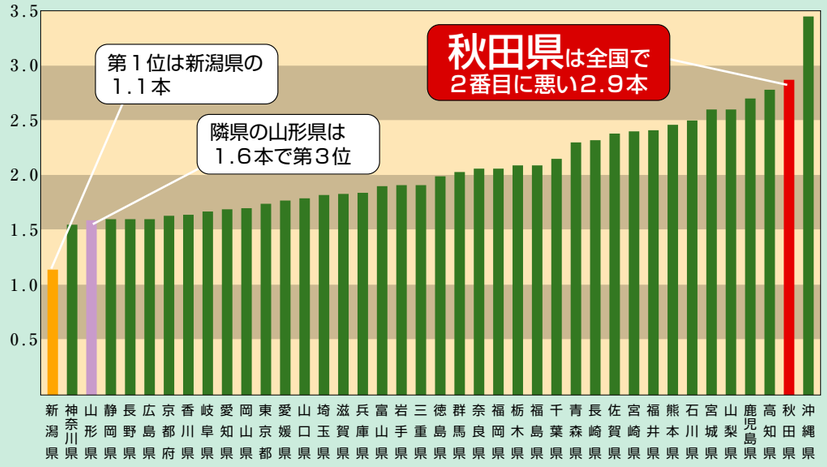
子どもたちだけでなく、大人にとっても歯の健康は重要な問題。歯の役割は実に多様で、食物をかむ仕事はもとより、顎（あご）の運動による脳への刺激、唾液の分泌による口腔内の抗菌作用、発音を助けるコミュニケーション機能など、心とからだの健康を大きく左右している。よくかむ人は、年をとってもボケにくく、寝たきりになりにくい。

日本人の平均寿命は伸び続け、今や世界一。ところが、40歳を過ぎてから歯を失う人が急増する。最も寿命の短い下顎の第二大臼歯で約50年。最も長いとされる下顎の中切歯で約65年。人生80年とすれば、約30年も自分の歯のない不便な生活を強いられることになる。

さらには、むし歯の治療に充てる医療費も重要な問題として挙げられる。平成17年度の国民健康保険分の歯科診療費（本人負担を含む）は、横手市全体で９億円超。度重なる診療は、家庭の財政を圧迫するだけでなく、精神的な負担も大きく伴う。

一生涯つき合う歯。子どものころからのケアと日ごろの予防や治療で、一生自分の歯で食べられるように、歯の健康への意識改革を進めていかなければならない。

■都府県別12歳児１人平均むし歯本数
※数値を公表している40の都府県との比較



【平成16年度・日本歯科医師会調べ】

歯の平均寿命（平成11年調査）

			中切歯	側切歯	犬歯	小臼歯 第一	小臼歯 第二	大臼歯 第一	大臼歯 第二
男	上顎	左	62.6	61.9	62.1	58.2	56.2	58.6	52.4
		右	62.2	61.5	61.8	58.5	57.3	58.9	51.9
	下顎	左	66.6	66.6	66.7	62.6	57.0	55.2	50.0
		右	66.3	66.4	66.7	62.3	57.9	55.5	51.0
女	上顎	左	61.3	59.8	60.5	58.0	55.1	57.4	50.8
		右	61.4	60.2	60.8	58.3	55.8	57.9	50.6
	下顎	左	66.1	65.9	65.8	60.7	54.9	51.9	49.4
		右	65.9	65.3	66.2	60.6	54.7	51.6	49.9

国保分の歯科診療費（平成17年度）

地域名	件　数	費用（円）
横　手	20,260	346,997,100
増　田	3,970	70,181,790
平　鹿	7,070	130,326,250
雄物川	5,407	91,457,120
大　森	2,652	54,954,670
十文字	7,012	135,116,200
山　内	2,014	38,533,940
大　雄	2,077	35,453,000
計	50,462	903,020,070

第1章 妊婦期

歯の健康は胎児からお腹の中で基礎はつくられる

妊娠7週目から歯を作る準備は始まっている

歯の健康づくりは、胎児がお母さんのお腹の中にいる妊婦期から始まっている。左頁の表(☒および☒)を見ると、乳歯の形成や石灰化、永久歯の形成など、生涯を共にする歯の形成のほとんどが妊婦期に行われていることがわかる。最も早いのが乳中切歯で、母親のお腹の中に赤ちゃんがいるとわかった妊娠7週目には、すでに赤ちゃんの顎(あご)の中で歯を作る準備が始まっている。さらに妊娠4か月目には、歯が作られはじめる（石灰化の開始）。赤ちゃんが丈夫な歯をつくるためにも、妊婦期における母親の良好な健康状態、栄養バランスの取れたメニューの選択や食事の取り方が大切になってくる。

妊娠中にかかりやすいむし歯や歯周病

妊娠中は女性ホルモンの分泌が増大し、これにより唾液が酸性に傾くことから、むし歯ができやすくなる。つわりで歯磨きがおっくうになることも、むし歯になりやすい状態をつくっている。口腔内の環境の悪化は、歯周組織にも影響を与え、歯周病の発生を促すことへもつながる。

歯周病は、歯と歯ぐきの間にできたポケットと呼ばれるすき間で細菌が繁殖、炎症を起こすもので、進行すると歯を支える骨を溶かしてしまう。歯を失う原因になるだけでなく、細菌が出す様々な物質が血流を通して体内を巡り、身体に多くの悪影響を及ぼすとされる。むし歯や歯周病への罹(り)患を未然に防ぐためにも、妊娠前にむし歯や歯周病の処置を済ませておくことが理想である。

低い歯科健診受診率 平均は34・3%

市では、妊婦期における母親の歯の健康管理を目的に、歯科医院での無料歯科健診を行っている。すべての妊婦が対象で、母子手帳の発行の際、無料の受診票を配っているが、その受診率が伸び悩んでいる。

市保健衛生課の調べによると、平成16年度に24・5%だった受診率が、平成17年度には34・3%と、約10%の伸びを示したものの、全体の6割以上の妊婦が歯科健診を受診していないという結果となった。

健診の内容は、妊婦のむし歯や歯周疾患の検査、歯の清掃、妊娠中や乳児に対する歯科保健の工夫が必要。口腔内の環境が悪化し、むし歯ができた場合、進行したむし歯や歯周病による痛みが、妊婦に過度のストレスを与えることも考えられる。症状により、妊娠中でも治療は可能だが、できれば、安定期に治療することが望ましい。

いずれにしても、母親の歯の健康状態が胎児に与える影響は計り知れない。日ごろの歯の健康管理はもちろん、妊娠中は、普段にも増して、歯の健康管理に注意が必要である。

指導。治療行為ではなく、あくまでも歯の健診であるため、妊婦に与える負担はほとんどない。

市では、妊娠4～5か月ごろの安定期に受診することを勧めている。

妊娠中の口腔管理と歯科治療

妊娠中は、つわりなどによるストレスにより、口腔内の管理がおろそかにされがち。食事が好物に偏ったり、糖分をとりすぎるなど、食生活の変化も予想される。つわりがひどく、歯磨きが困難なときは、洗口液や小さめの歯ブラシを使用するなど

来年2月に出産を控える沙都子さん。母親としての自覚もたっぷりに、子どもの歯の健康を願っていました。

【撮影協力】
星野歯科医院(横手)

表①　妊婦歯科健診受診状況

【単位:人・%】

地域		平成15年度	平成16年度	平成17年度
横手	交付件数	324	333	327
	受診件数	130	94	128
	受診率	40.1	28.2	39.1
増田	交付件数	53	51	49
	受診件数	14	11	17
	受診率	26.4	21.6	34.7
平鹿	交付件数	149	101	84
	受診件数	29	31	22
	受診率	19.5	30.7	26.2
雄物川	交付件数	106	85	70
	受診件数	28	26	20
	受診率	26.4	30.6	28.6
大森	交付件数	58	51	50
	受診件数	11	12	13
	受診率	19.0	23.5	26.0
十文字	交付件数	147	125	123
	受診件数	39	40	41
	受診率	36.5	32.0	33.3
山内	交付件数	32	19	23
	受診件数	4	5	9
	受診率	12.5	26.3	39.1
大雄	交付件数	55	36	32
	受診件数	13	8	10
	受診率	23.6	22.2	31.3
計	交付件数	1,072	926	758
	受診件数	268	227	260
	受診率	25.0	24.5	34.3

【市保健衛生課調べ】

乳歯及び永久歯の発育の目安

表②　乳歯の発育の目安

歯の種類	歯胚の形成	石灰化開始	歯の完成
乳中切歯	妊娠7週	妊娠4か月	1.5歳
乳側切歯	〃	妊娠4.5か月	1.5歳～2歳
乳犬歯	妊娠7.5週	妊娠5か月	3.5歳
第一乳臼歯	妊娠8週	〃	2.5歳
第二乳臼歯	妊娠10週	妊娠6か月	3歳

表③　永久歯の発育の目安

歯の種類	歯胚の形成	石灰化開始	歯の完成
第一大臼歯	妊娠4か月	出生時	9～10歳
中切歯	妊娠5か月	生後4か月	9～10歳
側切歯	〃	生後4.5か月	10～11歳
犬歯	妊娠6か月	生後5か月	12～15歳
第一小臼歯	出生時	2歳	12～13歳
第二小臼歯	生後8か月	2.5歳	12～14歳
第二大臼歯	生後9か月	3歳	14～16歳

生まれてくる子どものためにできるだけのことを

Interview インタビュー

高橋沙都子さん

（たかはし さとこ・28歳・横手）

妊娠して初めて、母親の歯が良くないと子どもの歯も悪くなるということを知りました。結婚を機に、歯の治療を済ませてはいましたが、それほど重要だという意識は持っていませんでした。改めて歯の健康の大切さを実感しています。

初産なのですべてが初めての経験。いろいろ不安もありますが、子どもができたことが何よりもうれしく、幸せに思っています。その子どもが歯の痛みで苦しんだりするのはとてもかわいそうです。生まれてくる子どものために、母親としてできるだけのことをしていきたいと思っています。

第2章 乳児期

乳歯の誕生 むし歯予防は、歯磨きの習慣づくりから

むし歯予防の始まり 歯磨きの楽しさを伝える

はじめて生えた乳歯は成長のあかしとしてうれしいもの。子どもの健やかな成長にとって、食べ物をかんだり、発音を助けたりする乳歯が果たす役割は非常に大きい。わずか1本でも歯が生えれば歯磨きが必要となり、この時点でむし歯予防はすでに始まっている。歯磨きは楽しいということを感じさせ、習慣づけることが大切である。

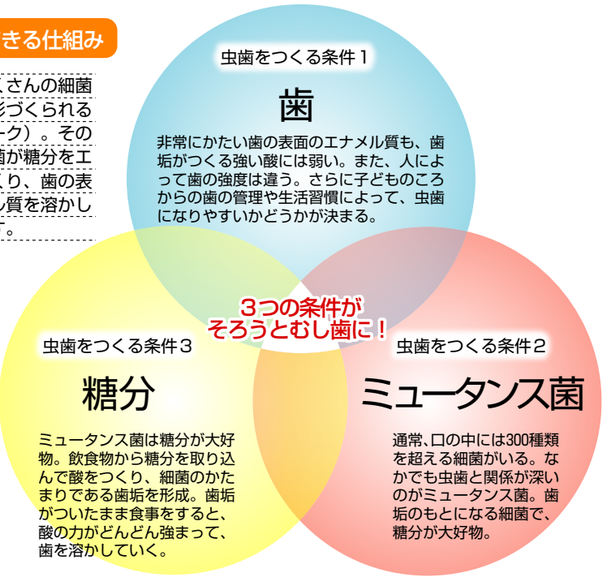
高いり患率 求められる安定対策

平成7年から16年までの10年間の統計によると、1歳6か月児健康診査におけるむし歯のり患率は、秋田県、横手市ともに全国平均より高く、およそ5%から8%の間で推移している（表①）。また、1人当たりの本数についても、全国平均が0・1本から0・17本の間で推移しているのに対し、秋田県と横手市は0・2本前後とわずかに高い（表②）。一般的に生後10か月で歯が生え始めるとして、わずか数か月後にはむし歯にり患している計算である。乳歯は永久歯に比べてエナメル質が薄いため、むし歯になりやすいうえ、一度むし歯になると進行が早いのが特徴である。

さらに、全国平均では、り患率、1人あたりの本数ともに年々数値が低下し続けている（改善されている）のに対し、秋田県および横手市では、上下動を繰り返している。改善に向けた、より効果的な対策が求められている。

むし歯のできる仕組み

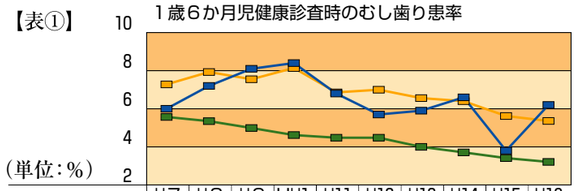
口の中のたくさんの細菌が集まって形づくられる歯垢（プラーク）。その中にすむ細菌が糖分をエサに酸をつくり、歯の表面のエナメル質を溶かしてしまいます。



お菓子だけが原因ではない

甘いものがむし歯の主な原因とされているが、ご飯やパン、めん類などの炭水化物、いも類、かぼちゃ、とうもろこし、くだものなども糖分を多く含んでいます。

【表①】1歳6か月児健康診査時のむし歯り患率



（単位：%）

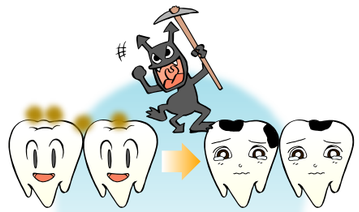
	H7	H8	H9	HH1	H11	H12	H13	H14	H15	H16
横手市	6.0	7.2	8.1	0	6.8	5.7	5.9	6.6	3.8	6.2
秋田県	7.3	7.9	7.6	8.4	6.9	7.0	6.6	6.4	5.6	5.4
全国	5.6	5.4	5.0	8.1	4.5	4.5	4.0	3.7	3.4	3.2

口移しはダメ！

口移しでものを食べさせたり、大人が使った箸で赤ちゃんに食事をさせたりすると、ミュータンス菌などの細菌が増えてお口の中の病気の原因になります。

感染を防ごう

お母さんを中心とする家族、大人からむし歯菌が子どもに感染することが問題になっています。



むし歯原因菌の感染

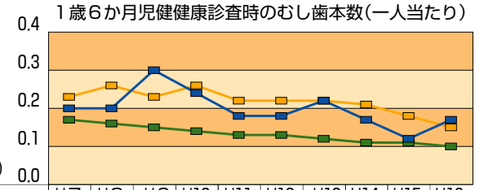
- むし歯は、むし歯菌の感染による病気
- 生まれたばかりの赤ちゃんには存在しない
- 母親などの育児担当者の口から、唾液を介して感染
- 母親の口の中が清潔であれば、菌の数が少なく、子どももその危険が低くなる→大人の口腔管理が大切

10か月健診での歯磨き指導（増田）

感染するむし歯菌 家族の口腔内を清潔に

ここで忘れていけないのは、むし歯はむし歯菌の感染によるれっきとした病気であり、生まれたばかりの赤ちゃんの口腔内にはむし歯菌が存在していないということ。家族などからの食べ物の口移しや、大人が使用した箸などを介して感染することがわかっている。したがって、家族の口が清潔であれば、子どもに感染する危険性も低くなる。日頃から子どもの口を観察し清潔に心がけるとともに、みずからがむし歯菌を保有しないような口腔管理が必要である。

【表②】1歳6か月児健康診査時のむし歯本数（一人当たり）



（単位：本）

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
横手市	0.20	0.20	0.30	0.24	0.18	0.18	0.22	0.17	0.12	0.17
秋田県	0.23	0.26	0.23	0.26	0.22	0.22	0.22	0.21	0.18	0.15
全国	0.17	0.16	0.15	0.14	0.13	0.13	0.12	0.11	0.11	0.10

家庭の取り組みと地域の連携で健康推進

福祉環境部保健衛生課
健康増進担当（保健師）
成田悦子さん（なりた えつこ）

Interview インタビュー

母親が歯の健康への意識を持つことが、子どもや、家族全体の取り組みに大きく影響します。食事・おやつ・飲み物の与え方・歯磨きなどは、家庭で取り組んで行くべき「しつけ」の1つとして、とても大切なことです。歯の健康を保つための適切な生活習慣を、子どもの頃から身につけられるよう、ぜひ、ご家族で取り組んでいただきたいものです。

私たち保健師も、むし歯や歯周病予防についての正しい知識を普及・啓発し、生涯にわたる歯の健康推進のために、歯科保健対策を充実させていくことが求められています。

保育所（園）・幼稚園・学校・医療機関・地域の皆さんと連携をとりながら、子どもからお年寄りまで生涯にわたる歯科保健事業につなげていきたいと思います。

「どうせ生え替わる」は×
生涯の歯を守るため
手助けが最も必要な時期

歯科衛生士による歯磨き指導（大森）

乳児から幼児への成長に伴い、口にする食べ物が大きく変化する。幼児期の食生活は成長の上でもとても重要で、大人はある程度の栄養を補えば健康を維持できるが、子どもの場合は、さらに発育のための栄養も必要となってくる。活発化する食生活。これに対応した口腔衛生の習慣づくりが必要となってくる。

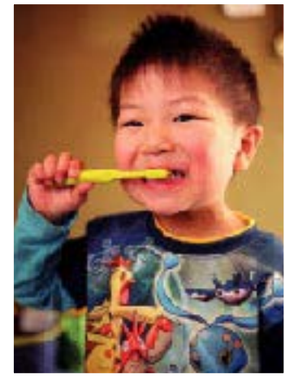
幼児期においても、乳児期と同様に秋田県と横手市のむし歯り患率（表①）及び1人当たりの本数（表②）は、いずれも一見して全国平均より高いことがグラフから見てとれる。

横手市に限らず、全国的に憂慮すべきなのが、乳児期に1割以下だったり患率がわずか1年余りの間に半数を超えるまでに急激に悪化しているということ。この時期の歯の手入れがいかに重要な意味を持っているかをこのデータが示している。

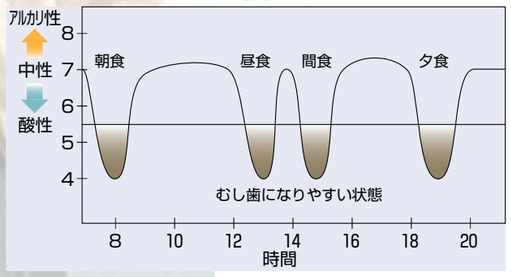
また、1人当たりの本数にあっては、横手市が全国平均のほぼ2倍。その差が乳児期よりも広がっている。乳歯のむし歯菌は永久歯にも多大な影響を与えることから、「どうせ生え替わるから」という考えで乳歯の手入れをおろそかにしてはいけない。

みずからの判断で行動するにはまだ早いこの時期は、子どもたちに歯磨きをする意識や習慣をつけさせることはもちろん、「生涯を共にする歯」を守ってあげるため、周りの手助けが最も必要であると言える。

仕上げ磨きは母の魔法



おやつの時間を決めよう



食べ物が入ってくると、口の中は酸性に傾く（むし歯になりやすい状態）。その後、何も食べずにいると唾液により中和されていくことから、決められた時間に間食をとるのが望ましい。

【表①】 3歳児健康診査時のむし歯り患率

（単位：%）

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
横手市	66.7	66.0	62.5	58.4	59.6	51.7	49.7	51.4	48.6	48.6
秋田県	63.8	61.9	58.9	56.0	56.7	51.4	49.1	47.8	48.3	45.8
全国	45.7	43.4	41.2	40.4	37.8	37.8	33.8	32.2	31.3	29.8

【表②】 3歳児健健康診査時のむし歯本数（一人当たり）

（単位：本）

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
横手市	3.8	3.8	3.6	3.4	3.5	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5
秋田県	3.6	3.4	3.2	3.1	3.0	2.6	2.5	2.5	2.5	2.2
全国	2.2	2.0	1.9	1.8	1.7	1.5	1.5	1.4	1.3	1.2

生活習慣に気を付けてむし歯ゼロを続けたい

高橋栄子（えいこ）さん(33)
翔（しょう）くん(3)
（大森）

3歳児の歯科健診で、むし歯がなかったので安心しました。翔は歯磨きが大好き。1歳から保育園に入っていますが、その頃から歯磨きが好きで、自分から進んで磨いています。朝食後と寝る前、日中は保育園で1日に3回の歯磨きをしています。仕上げ磨きはなるべく手を抜かず、丁寧にやることを心掛けています。

何でも好き嫌い無く食べる子ですが、とくに肉よりも魚が好き。飲み物もジュースよりもお茶や牛乳が好きなので、むし歯が無いのもわかるような気がします。私はむし歯の治療中ですが、子どもには痛い思いをさせたくないので、食生活はもちろん、生活習慣にも気を配り、ずっとむし歯ゼロを続けていきたいと思っています。

フッ素洗口 取り組みの様子

増田中学校（増田）

増田小学校（増田）

十文字保育所（十文字）

睦合小学校（十文字）

市内でフッ素洗口に取り組む施設数及び対象人数・実施人数・実施率

平成18年９月末現在
秋田県調べ
【単位：人・%】

地域・学校名	施設数	対象人数	実施人数	実施率
●保育所・幼稚園				
横　手	6	138	134	97.1
増　田	1	56	56	100.0
平　鹿	5	120	114	95.0
雄物川	5	81	80	98.8
大　森	4	55	50	90.9
十文字	5	121	114	94.2
山　内	－	－	－	－
大　雄	1	46	45	97.8
合　計	27	617	593	96.1
●小学校				
増田小学校	1	442	424	95.9
十文字第一小学校	1	451	443	98.2
十文字第二小学校	1	121	103	85.1
睦合小学校	1	100	97	97.0
植田小学校	1	104	104	100.0
●中学校				
増田中学校	1	220	187	85.0
合計（小・中）	6	1,438	1,358	94.4

市内33施設で実施 フッ素洗口で むし歯に強い歯をつくる

フッ素洗口の取り組み お口ブクブク大作戦

フッ素洗口事業は平成16年、県の新規事業「お口ブクブク大作戦」として、県内の保育所や幼稚園、小学校などで始められたむし歯予防の取り組み。県内の子どもたちのむし歯本数が全国最低レベルであることへの打開策として導入された。

効果的にむし歯予防を行うには、歯磨きや甘味制限のほかにむし歯に対する歯の抵抗力を高めることができるフッ素洗口が有効とされている。厚生労働省は、各都道府県にフッ素洗口を奨励する指針を通知し、現在では、すべての都道府県で実施されている。

市内の33施設で実施 利用は希望制

市内でフッ素洗口を取り入れている保育所や小学校などの施設は合計で33施設。このうち保育所・幼稚園では、市内にある39のうち27施設、率にして81・8％の施設が実施している。小学校については、増田地域（１施設）、十文字地域（４施設）の全小学校で実施され、中学校については、増田中学校のみの実施となっているのが現状である。

フッ素洗口をするかしないかは希望制。年度当初に希望を取り、保護者が希望した児童生徒だけが実施している。（希望すれば途中で参加することも可能）。フッ素洗口を取り入れている33施設のうち、実に94％を超えるほとんどの子どもたちがフッ素洗口を行っている。

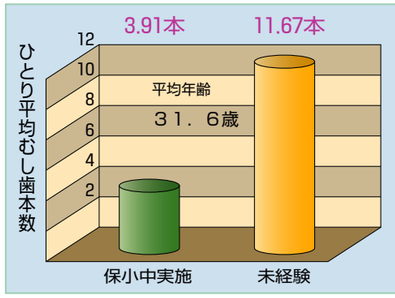
習慣づいたフッ素洗口 待たれる効果のほど

保育園では週５日、小中学校では週１日、フッ素洗口が行われている。それぞれの施設ごとで実施する時間帯は違うが、授業と授業の間の休み時間や昼休み、給食後などに行われている。

フッ素洗口はうがいと違い、口の中で溶液をブクブクと巡回させた後に吐き出す方法。時間も１分間という短時間で行われている。

今回、取材先として訪問した増田小学校では、養護教諭が歯科医師の指示書に従いフッ素溶液を作成。クラス別に分けられた容器を担任が教室に運び、子どもたち一人ひとりのコップに配った後、砂時計を用いて１分間を計測。子どもたちもすっかり慣れた様子で、フッ素洗口を行っていた。

歯を強くし、むし歯予防に効果があるとして導入されているフッ素洗口。永久歯が生え始める幼児期の後半から、生え揃う中学まで、継続して行うことが最も効果的であるとされている。事業の導入からまだ２年しか経過していない横手市では、明確な調査結果はでていないが、その効果や実施地域の広がりが期待されている取り組みである。



フッ素洗口による むし歯予防効果（成人期）

フッ素洗口を保育園から中学校まで実施した人と未実施の人では、大人になってからのむし歯の保有数に約３倍もの差がでている。

集団だからこそできる取り組み

十文字保育所 所長 田口美喜子さん（たぐち みきこ・十文字）

Interview インタビュー

初めて導入に向けた説明を受けた時は、薬剤を扱うことや毎日の保育業務の中にうまく取り入れることができるかどうか不安がありました。しかし、むし歯予防に取り組まなければならない現状を聞いているうちに「やるしかない」と判断できました。薬剤の管理や毎日の報告など、大変な面もありますが、担当する保育士の努力で問題なくフッ素洗口を行っています。もちろん歯磨きや食生活など家庭でのむし歯予防が基本ですが、このような取り組みは集団だからこそ欠かさずにできるのではないでしょうか。せっかくできた習慣ですので、これからも続けていきたいと思っています。

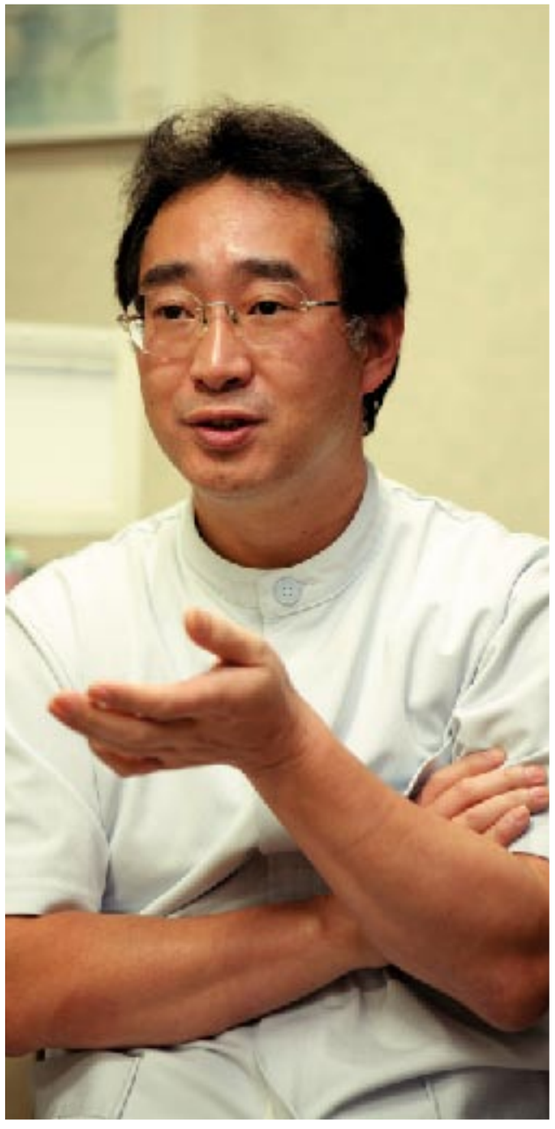
フッ素洗口は、実施方法が簡単なだけでなく、むし歯予防効果が高く、さらに費用対効果にも優れていますので、公衆衛生として集団で行うのに適したむし歯予防の方法と言えます。

フッ素洗口を行うことで、歯の表面からフッ素が取り込まれ、抵抗力の強い歯が作られます。また、むし歯は自然に治らないとされていますが、初期のむし歯は再度カルシウム等が付着することにより、元に戻ることがあり、フッ素はその働きを盛んにするのです。さらに予防の効果は、成人後も持続することから、非常に効果が大きい取り組みと言えます。

今、一番に取り組まなくてはならないのが、子どもの歯の問題です。秋田の子どもたちの歯が全国でも最低のレベルにあるという事実を、われわれ歯科医師がだまって見過ごすわけにはいきません。何とかしてこの状況を改善していかなければなりません。

県が推進してきた「お口ブクブク大作戦」により、県内にもかなりの規模でフッ素洗口が浸透してきました。しかしながら、保育所や幼稚園でフッ素洗口を行っても、小学校や中学校では実施していない地域が多いのが現状です。永久歯が生え始める幼児期の後半から、生えそろう中学にかけて継続して行うことが最も効果的ということ、やめた後も効果が持続することなどからも、小学校、中学校と継続して取り組むことが望ましいのです。

フッ素洗口について正しい知識を持つことが必要
関係機関が連携し、一歩進んだ予防施策の実現を



全国で一番むし歯の少ない新潟県では、早くからフッ素洗口を子どもたちに取り入れ、その成果を挙げてきました。新潟がやってきたこと、秋田がやってこなかったこと、それぞれを検証すれば、フッ素洗口の必要性は自然と見えてきます。

歯科医療の現場も、「治療」から「予防」へと大きく転換している中、これからは、学校や保育所、行政、歯科医師が連携を図り、これまでより一歩踏み出した予防への取り組みを展開していかなければなりません。社会全体が協力し合い、歯に対する予防意識を高めていきたいと思っています。

フッ素洗口の現状は、単なだけでなく、むし歯予防効果が高く、さらに費用対効果にも優れていますので、公衆衛生として集団で行うのに適したむし歯予防の方法と言えます。

フッ素洗口を行うことで、歯の表面からフッ素が取り込まれ、抵抗力の強い歯が作られます。また、むし歯は自然に治らないとされていますが、初期のむし歯は再度カルシウム等が付着することにより、元に戻ることがあり、フッ素はその働きを盛んにするのです。さらに予防の効果は、成人後も持続することから、非常に効果が大きい取り組みと言えます。

今、一番に取り組まなくてはならないのが、子どもの歯の問題です。秋田の子どもたちの歯が全国でも最低のレベルにあるという事実を、われわれ歯科医師がだまって見過ごすわけにはいきません。何とかしてこの状況を改善していかなければなりません。

県が推進してきた「お口ブクブク大作戦」により、県内にもかなりの規模でフッ素洗口が浸透してきました。しかしながら、保育所や幼稚園でフッ素洗口を行っても、小学校や中学校では実施していない地域が多いのが現状です。永久歯が生え始める幼児期の後半から、生えそろう中学にかけて継続して行うことが最も効果的ということ、やめた後も効果が持続することなどからも、小学校、中学校と継続して取り組むことが望ましいのです。

中にはフッ素の有害性を心配する声もありますが、フッ素洗口に使用するフッ素濃度では、たとえ誤って飲み込んだとしても全く心配いりません。フッ素は、私たちが日ごろ口にしている食べ物や飲み物のほとんどに含まれている物質です。しっかりとした管理のもと、安全な使い方をすることが大切なのです。

歯科医療の現場も、「治療」から「予防」へと大きく転換している中、これからは、学校や保育所、行政、歯科医師が連携を図り、これまでより一歩踏み出した予防への取り組みを展開していかなければなりません。社会全体が協力し合い、歯に対する予防意識を高めていきたいと思っています。

Interview インタビュー

歯科医師 **松野　才**さん

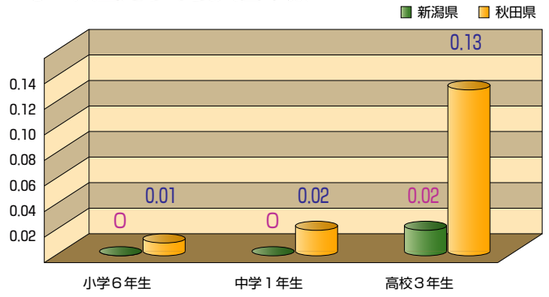
（まつの さとし・十文字）

データで見るフッ素洗口の現状

フッ素洗口の取り組みで、先駆的な存在である新潟県。実施施設や実施人数は、全国の中でも群を抜いている。県の事業推進の効果もあり、秋田県内でも、フッ素洗口を実施する施設が増加している。左は秋田県と新潟県との比較。全国で一番むし歯の少ない県との比較では、その差は歴然である。

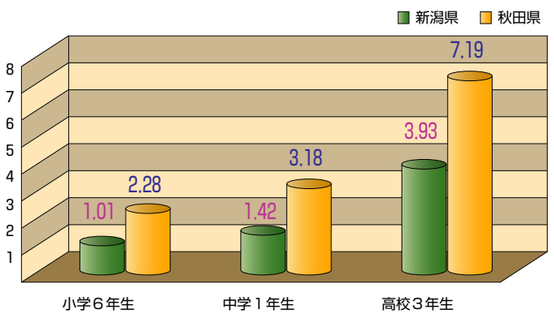
【新潟県と秋田県との比較】

◎一人当たりの喪失歯本数

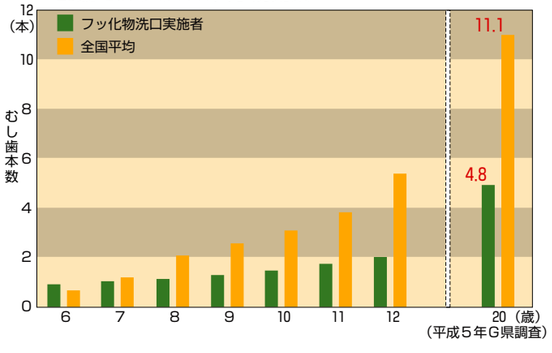


◎高校３年生のむし歯による喪失歯総数
秋田県の生徒数１３，９２１人→１，７６９本
新潟県の生徒数２５，９９５人→　４８３本
生徒数は約２倍で、喪失歯数は約４分の１

◎一人当たりのむし歯（経験）本数〔平成１４年〕



【参考資料】
◎小学校でフッ素洗口を行った児童の20歳におけるむし歯予防効果



◎全国の集団フッ化物洗口実施状況

（2006年3月末現在）

都道府県	施設数	人　数	都道府県	施設数	人　数
北海道	137	7,840	滋　賀	71	9,368
青　森	38	5,175	京　都	124	23,323
岩　手	81	2,953	大　阪	2	246
宮　城	69	5,650	兵　庫	203	8,361
秋　田	77	3,147	奈　良	14	1,110
山　形	104	10,565	和歌山	65	5,538
福　島	68	8,542	鳥　取	8	179
茨　城	2	2 119	島　根	108	6,084
栃　木	32	3,227	岡　山	10	2,141
群　馬	74	4,786	広　島	46	1,841
埼　玉	76	8,207	山　口	179	21,552
千　葉	14	1,217	徳　島	5	113
東　京	3	235	香　川	78	12,911
神奈川	14	1,186	愛　媛	120	18,789
新　潟	760	82,814	高　知	37	1,303
富　山	192	24,355	福　岡	24	2,080
石　川	42	2,007	佐　賀	359	34,764
福　井	35	1,435	長　崎	158	9,621
長　野	121	22,322	熊　本	193	7,023
山　梨	19	769	大　分	31	1,071
岐　阜	64	9,514	宮　崎	163	5,355
静　岡	456	36,478	鹿児島	118	4,889
愛　知	496	68,803	沖　縄	31	2,029
三　重	12	297	計	5,133	491,334

◎お口ブクブク大作戦事業
幼稚園・保育所実施状況　（2006年８月31日現在）

福祉環境部名	全施設数	申込施設数	実施施設数	実施人数
大　館	50	3	3	114
鷹巣阿仁	17	2	2	12
山　本	40	7	3	41
秋　田	121	7	7	182
由　利	42	12	12	255
仙　北	57	32	31	474
平　鹿	39	27	27	594
雄　勝	23	3	3	54
計	389	93	88	1,726

※福祉環境部とは、それぞれの地域にある県の機関（地域振興局）

第5章

8020を目指して

目指すは健康寿命の延伸 健康な歯がもたらすいきいきとした人生

これからの日本の目標は、健康寿命の延伸。健康寿命とは、健康で明るく元気に生活する期間のことをいい、心身とも健康な状態で老後を迎えることが望ましい。そのためには、歯の寿命を延ばすことが大切で、8020運動を続けていくことにより、それが可能になる。子どものころから大切にしてきた歯を健康な状態で保つことが、人生をより一層豊かなものにしてくれる。

市内在住の前澤タエさんと佐藤春吉さんは、8020を達成し、いきいきとした毎日を過ごしている。二人に、その秘訣を聞いた。

8020(ハチマルニイマル運動)とは？

8020運動とは、平成元年から厚生労働省と日本歯科医師会が始めた「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動。20本以上の歯があれば、ほとんどの食べ物をかみくだくことができ、おいしく食べることができるといわれている。
実際に、80歳を超えて20本以上の歯がある人は、毎日元気に過ごしていることが広く知られるようになり、8020の大切さが認められてきた。

前澤夕工さん(85)

(まえさわ たえ・雄物川)

Interview インタビュー

自分の歯で食べられる幸せ

雄物川地域にお住まいの前澤さん。現在21本、自分の歯がある。8020の達成者とくれば、小さいころから歯の健康によほど気を配ってきたのではと思ったが、「16歳の時、床屋の修行のため、人と接するには歯をきれいにしなければと思い気をつけるようになりました。それまでは特に気にしなかったし、磨いたり磨かなかったりの生活でした」と以外な答えが返ってきた。

歯磨き以外は特に予防はしていないという前澤さん。「朝と夜の2回、歯磨きをしていますが、夜は歯磨き粉をつけていません。時間をかけて、丁寧に、歯と歯ぐきを磨くようにしています」と秘訣を語ってくれた。歯ぐきを丁寧にブラッシングすることで、歯を良好な状態に保てることを証明している。

さらに「好き嫌い無く、なんでも食べます。特に歯ごたえのある固いものが好きですね」「友達のほとんどは入れ歯。自分の歯で食べたり話したりしている私を、みんなうらやましいと言いますよ」と話してくれた前澤さん。

「自分の歯で食べられるのは本当に幸せ」と、自慢の歯をのぞかせながら、笑顔の絶えない前澤さんだった。

佐藤春吉さん(87)

(さとう はるきち・横手)

Interview インタビュー

誰にも真似できない特別な歯

県が主催する「県民いい歯の集い」で、8020達成者として毎年表彰されている佐藤さん。87歳という年齢にして、自分の歯が27本もある佐藤さんのような人は、市内にもほとんどいないという。「私の歯は誰にも真似できない特別な歯」と開口一番。その自信のほどを聞いた。

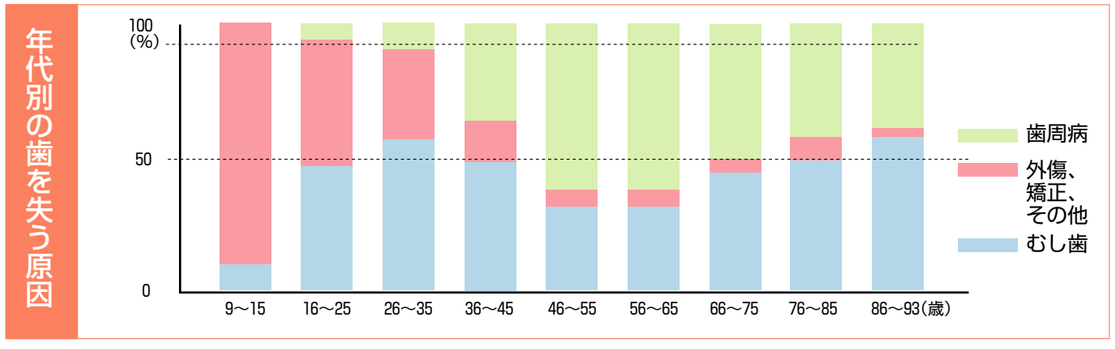
「子どもの頃、祖父母に可愛がられた私は、甘い物をいつも口にふくんでいたため、乳歯がむし歯だらけでした。そのうち、上下左右の乳歯2本ずつ、計8本のむし歯の乳歯が生え替わらず成人してしまいました。その後徴兵され、22歳の時、戦地で弾丸を避けるために歯を食いしばっていると、8本の乳歯が次々と抜け落ち、奥歯がすべてなくなってしまったんです。奥歯がなくなり不便な生活でしたが、その後、永久歯が生えてきたんです。歯科医にこの話をしても信じてもらえませんでしたが、本当の話です」と驚きの告白をしてくれた佐藤さん。

「特別なことはしていないが、固い食べ物が好き」と、前澤さんと同じ答えが返ってきた。「県の表彰ではいつも優秀賞。何とか最優秀賞を取りたい」と、さらに上を目指している。

胎児期から老後まで 丈夫な歯の基本は規則正しい生活習慣

Interview インタビュー

自慢の歯で愛される笑顔を



「幸福」は「口福」から
社会が守り育てる未来の歯

美味しいものを食べ、美味しいものを飲み、笑い、ある時は歌い、会話する。「幸福」は「口福」から始まっている。喜びや悲しみなどのあらゆる感情の表現も、口を中心として行われている。生きるうえで欠かせず、最も大切にしなければならない「歯」という存在。どの年代でも歯を守る取り組みは重要だが、とりわけ一生の歯の形成に大きくかかわる乳児期から学童期にある子どもたちの歯の状態が、全国最低レベルという事実は深刻な問題。長期的な視野に立った予防策の導入が急務である。

臼井和弘という人がいた。歯科医師として東京医科歯科大から厚生労働省に入省していた臼井氏は、平成15年に秋田県庁に出向。全国最低レベルのむし歯県である現状を改善しようと、フッ素洗口による「お口ブクブク大作戦」を提唱。県内ではほとんど実績の無かったフッ素洗口によるむし歯予防の普及に昼夜を問わず奔走。そのさなか、昨年暮れに起きたＪＲ羽越線特急「いなほ14号」の脱線・転覆事故に巻き込まれ、命を落とす。享年34。若すぎる、いたまれる死だった。

臼井氏の功績を後世に伝えるため、県が新たに設けた「臼井記念歯科保健功労賞」。11月８日、「いい歯の日」に、横手地域の明照保育園が第１回の功労賞を受賞した。明照保育園は約20年間、３歳以上の園児を対象に週１回、歯垢の染め出しなどによるむし歯予防に努め、平成16年からフッ素洗口にも取り組んでいる。このような歯科衛生に関する旺盛な取り組みが、幼児期に限られたものではなく、学童期、思春期といった年代まで継続して行われることが望まれる。継続して行われて初めて、その効果が最大限に発揮されるからだ。

健康な生活の基本は「家庭」にある。歯の健康も例外ではない。しかしながら、核家族化が進み、家事や育児など母親への負担が集中している現代社会で、細部まで行き届いた歯科衛生のすべてを家庭に求めるのは難しい状況となってきている。社会全体でそれを補完していくとなれば、教育や子育ての現場には教師や保育士というプロが、住民の健康増進を推進する行政の現場には保健師というプロが、そして歯科医療の現場には歯科医師というプロがいる。そうしたプロが連携し、予防策の方向性を見いだすことが、子どもたちの歯を守る上で、最良の道を示してくれるのではないだろうか。

「むし歯王国」という汚名の返上。解決の糸口は、すぐ目の前にある。

【特集：みつめ直す「歯の健康」】終わり

（取材協力　横手市歯科医師会・ひらか歯科医師会）

―この笑顔を守りたい―

街からあなたへ 行政情報便 06.11.15

よこて菊まつり盛大に開催 多くの愛好家を魅了

横手の秋の風物詩「よこて菊まつり」が10月27日から11月8日までの13日間、秋田ふるさと村を主会場に開催されました。

NHK大河ドラマで知られる物語「功名が辻」から2場面が展示された名物の菊人形場面展示では、色鮮やかな衣装をまとった菊人形が来場者の目を引きつけ、栽培や仕立ての技術を競う菊花展示大会では、丹精込めて育てられた大輪の菊や千輪咲などに足を止めて見入る愛好者の姿が見られました。

地域を豊かに・・・ 現代に蛍町のストーリーを

増田地域のそば生産者などからなる増田そば研究会が、同地域で栽培されたそばを100%使用した本格そば焼酎「蔵螢」を開発、2000本限定で販売を開始しました。

かつて、「農」と「商」がかみ合った豊かな地域として周辺に名を馳せていた増田地域には豊かさの象徴でもある内蔵が多数存在し、「内蔵にあかりが灯る様子が螢が舞い飛ぶように見えたため螢町と呼ばれていた」といういわれがありました。開発にあたっては、地元の自然の恵みが地域内外の交流をもたらすことで再び蔵にあかりを灯したいという願いが込められています。

原料には、名物三平ソバにも使用されている増田産そばを使用し、力強さの中に素朴さを感じさせる題字は、漫画「釣りキチ三平」でおなじみの矢口高雄氏によるものとなっています。

お問い合わせは、㈱増田町物産流通センター☎55-5051へ）

本格そば焼酎「蔵螢（くらほたる）」限定2000本販売

伝統×新発想 横手の新名物創出へ

よこてメシコレ！第2弾 開催

横手やきそばにヒント お好み焼きで関西、広島に続け

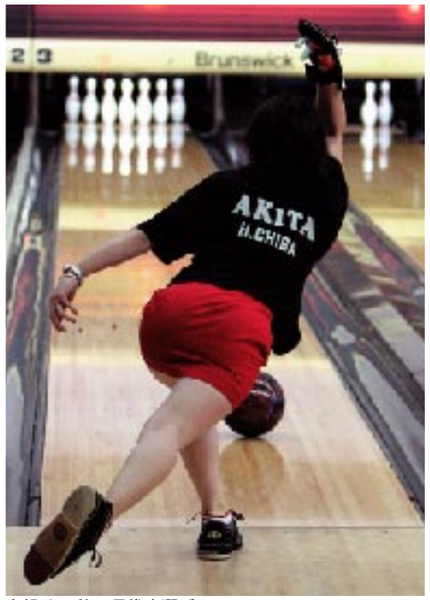
地産地消を進め、横手やきそばに続く新たな名物料理を開発しようするプロジェクト「よこてメシコレ！」の第二弾がこのほど行われ、市内の飲食店3店舗が横手の素材を活用したお好み焼き「横手焼き」の創作に挑戦しました。

開催にあたり、①横手産の米粉を使用した生地であること、②目玉焼きが上にのっていること、③横手地ソース（今冬発売開始予定）をかけることの3点が横手焼きの定義とされ、参加店舗では独創的で横手らしいお好み焼きを作るため何度も試行が重ねられました。

11月3日には、開発商品の発表イベントが秋田ふるさと村で開催され、試食した皆さんは、関西風、広島風、欧風と、それぞれの店舗の特徴が表れた横手焼きの違いを楽しんでいました。

なお、イベント後は、各店舗のメニューに加えられています。

（お問い合わせは、㈳横手市観光協会☎33-7111へ）


力投する秋田県代表選手

かまくら館で行われた開会式

国体ボウリング競技 リハーサル大会閉幕

リハーサル予定2種目を終了

内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯争奪第35回全国都道府県対抗ボウリング選手権大会が、11月2日から5日まで、台由（うてなゆ）ボウルを会場に開催されました。

この大会は、先月十文字陸上競技場等で開催されたホッケー競技に続く秋田わか杉国体リハーサル大会として行われたもので、各都道府県代表選手が一堂に会して、混合2人チーム戦、混合4人チーム戦、男女選手権者決定戦、団体総合の各種目で熱戦を繰り広げました。

横手市で予定されていた国体リハーサル大会は、以上2種目で終了となり、来年9月開幕の国体本番までさらなる盛り上がりが期待されます。

議会を傍聴してみませんか

市議会12月定例会開催のお知らせ

傍聴を希望される方は、横手庁舎7階の傍聴席に直接お越しください。なお、団体での傍聴の場合は事前に議会事務局までご連絡ください。

■日程（予定）
12月4日（月）【開会、本会議、議案上程ほか】
12月11日（月）【本会議、一般質問】
12月12日（火）【本会議、一般質問】
12月13日（水）【本会議、一般質問、請願・陳情付託】
12月22日（金）【本会議、各委員長報告、閉会】

■場　所
横手庁舎6階議場（傍聴席は7階）

■問合せ
市議会事務局（横手庁舎6階）☎32-2535

ご冥福をお祈りいたします

横手市教育長
大和谷弘氏　逝去

11月1日午前、横手市教育長の大和谷弘氏（63歳・平鹿）が急病のため市内の病院で逝去されました。

大和谷氏は、県教育庁文化財保護室長、湯沢高校長、旧平鹿町教育長などを経て、市町村合併後の昨年10月に横手市教育長に就任。横手市の教育行政の向上のため精勤されました。

大和谷氏の長年のご尽力に心から感謝申し上げるとともに、謹んで哀悼の意を表します。

契約検査

建設工事及び測量・建設コンサルタント等指名競争入札参加資格申請手続きについて

平成19、20年度において横手市が発注する建設工事および測量・建設コンサルタント等業務の競争入札（見積）に参加を希望する方は、次により申請書を提出して下さい。

■受付期間
平成18年12月1日（金）～平成19年1月31日（水）
（土、日曜日、祝日を除く）

■申請書の提出方法
申請書は、郵便・宅急便による送付または持参により提出して下さい。持参する場合には、午前8時30分から午後5時までの間に記載内容を説明できる方が持参して下さい

■提出先
〒013-8601秋田県横手市前郷字下三枚橋269番地
横手市役所北庁舎 財務部契約検査課契約担当
☎0182-35-2169　FAX182-32-4655

■資格審査の有効期間及び結果の通知
・資格者名簿の有効期間は、2年間（平成19年4月1日～平成21年3月31日）とします
・資格審査の結果については、横手市内に本社又は支店（営業所）を有する方に対してのみ、平成19年4月中旬までに書面により通知します

※詳しい内容については、市ホームページまたは市役所北庁舎契約検査課で配布している下記の資料をご覧ください。
○横手市工事請負指名競争入札参加資格申請書の提出について
○横手市測量・建設コンサルタント等指名競争入札参加資格申請書の提出について
［ホームページアドレスhttp://www.city.yokote.lg.jp/］

秋の叙勲

平成18年秋の叙勲、危険業務従事者叙勲ならびに秋の褒章がこのほど発表されました。横手市からは、秋の叙勲9人、危険業務従事者叙勲1人、秋の褒章3人の計13人が受章されましたのでご紹介します。受章された皆さんには、心からお祝い申し上げます。

旭日小綬章【地方自治功労】
元増田町議会議員
長岩道男氏（増田・76歳）

旭日双光章【地方自治功労】
元大森町議会議員
佐々木多三郎氏（大森・83歳）

旭日双光章【地方自治功労】
元横手市議会議員
山本幸右衛門氏（横手・79歳）

瑞宝単光章【児童福祉功労】
元金沢保育園主任保育士
赤川和子氏（横手・71歳）

瑞宝双光章【児童福祉功労】
元沼館保育園園長
髙橋大我氏（雄物川・72歳）

瑞宝双光章【教育功労】
元公立中学校長
青谷鐵藏氏（大森・85歳）

瑞宝単光章【国勢調査功労】
元国勢調査員
三浦政治氏（十文字・74歳）

瑞宝単光章【消防功労】
元雄物川町消防団団長
佐藤藏吉氏（雄物川・71歳）

瑞宝単光章【消防功労】
元横手市消防団分団長
後藤惣太郎氏（横手・78歳）

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章【消防功労】
元横手平鹿広域市町村圏組合消防司令長
菅原彌之助氏（横手・78歳）

秋の褒章

黄綬褒章【業務精励】
沖田鈑金代表取締役
沖田武氏（横手・69歳）

藍綬褒章【選挙関係事務功績】
元山内村明るい選挙推進協議会会長
大和チヨ氏（山内・81歳）

黄綬褒章【業務精励】
備前酒造本店杜氏
髙橋徳保氏（山内・68歳）

平成18年 秋の叙勲 褒章

がんばれスギッチ

〜国体だより〜 No.8

横手市開催競技の紹介 その4

バレーボール（少年男女）

バレーボールは、長方形のコートで中央のネット越しにボールを３回（触れる）以内で相手コートに返す競技です。多くの方は試合を観るだけでなく、実際にプレーをした経験があることでしょう。男女を問わず幅広い年代で楽しめる、ポピュラーなスポーツです。

Q　競技はどこで行われるの？

A　少年男子は増田体育館で、少年女子は横手体育館と雄物川体育館で開催されます。
男子は全国９ブロックの予選を勝ち抜いたチームと秋田県チームの計10チームが、女子は47都道府県すべてのチームが出場します。また、大館市と北秋田市では、成年男女６人制と９人制の競技が行われます。

岡山国体でのバレーボール競技

Q　６人制のルールは？

A　１セット25点先取の５セットマッチ（最終第５セットは15点先取）で行い、３セットを先取したチームが勝利します。
第４セットまでは24－24、第５セットは14－14でデュースとなり、２ポイント連取したほうがそのセットを獲得します。

Q　バレーボールの見どころは？

A　ボールをつなげて相手に返していくラリーの応酬と、ちょっとした勢いの差が得点に現れ、試合の流れが大きく変わるスピーディな展開が見どころです。さらに、レシーブ→トス→スパイクの連携による攻撃と、それに対する守備のかけひきにも注目してください。

■国体に関する問合せは
総務企画部国体推進事務局
（横手就業改善センター内）
☎35-2171

市長です こんにちは

横手市長　五十嵐　忠悦

●対話から生まれる政策のヒント

10月26日から28日までの３日間、「合同ソウルセールス事業」のため、県内の市町村長や観光関係者とともに韓国を訪問しました。これは、自治体や民間企業等が一体となって観光誘客や物産のＰＲを行い、県内経済の活性化を図ることを目的としたもので、限られた時間ではありましたが、非常に有意義な訪問となりました。

さて、公務で市外の方々と面談する機会が多々あります。観光ＰＲや企業誘致活動など、目的によって重点の置き方は異なりますが、いつも心がけていることがあります。一つは、横手市に対する相手の知識、印象を把握し、的確な情報を提供すること、もう一つは、横手市の魅力と合わせて課題も理解してもらうことです。その上で興味を持ってくださる方とは、さらに突っ込んだ意見交換をし、話しを深めていきます。一方的な情報提供ではなく、互いに意見を交わすことによって、新たな政策のヒントやアイデアが生まれてくるのです。これは基本的なことであり、非常に重要なことです。

11月は今年度２回目の「私のまちの市長室」で、全地域にうかがっています。子育てや地域活動に忙しい若い世代の皆さんとの意見交換は、新しい発見がいっぱいです。私の目的は、各々の意見が出された背景を探り、そこに隠された輝きを見つけることにあります。どんな意見や要望も無駄にしません。まちづくりの主役は市民の皆さんです。ともにまちづくりを担う仲間として、互いの気づきのもとになる有意義なキャッチボールができつつあると確信しています。

市長面会日
11月28日(火)
午前９時〜10時30分
申込期限11月24日(金)
■申込み・問合せ
市総務企画部秘書広報課秘書担当
☎35−2111内線1033

私のまちの市長室についての詳細は来月号で報告します

里山の景観を取り戻そう

■里山保全ボランティア（大森）

10月31日、地元住民や大森町野球協会員、雄物川高校バレーボール部員など110人のボランティアが、大森野球場近くの山林で松くい虫の被害木の整理に汗を流しました。

これは、美しい里山の景観を取り戻し、秋田わか杉国体の参加者を安全に迎え入れようと行われたもの。参加者は、森林組合の作業員らが事前に伐採し、長さ２㍍ほどに切った約2,100本の丸太を２、３人で担いだりしながら斜面を下り、市道脇に積み上げました。伐採した丸太はトラックで運ばれ、チップ加工場で加工されることになっています。

ボランティアの皆さんが被害木の丸太を運び出しました

オープニングでは、市内５つの高校の吹奏楽部が合同演奏を披露

地域のつながりを大切に

■横手市小中高フェスタ２００６（横手）

小・中・高校生による合同の文化祭「横手市小中高フェスタ2006」が11月５日、横手市民会館で開催されました。

今年で３回目を迎えたこのイベントは、（社）横手青年会議所の支援のもと、市内の高校生が実行委員会を組織して企画・実施しているもので、開会にあたり、実行委員長の米内佑希（よないゆうき）さん（横手清陵学院高２年）が「地域のつながりを大切に考えて全力で準備をしてきた」とあいさつ。この日は好天にも恵まれ、屋内外でのさまざまなアトラクションを通して参加者同士の交流を深めました。

地元の食材を使った「いものこ汁」が好評でした

朝市から感謝を込めて

■いものこ汁無料サービス（十文字）

10月27日、十文字市場にて、いものこ汁の無料サービスが行われました。これは、十文字の朝市に出店している方々によって組織された十文字商栄会（小松権二（けんじ）会長）が、市場を利用してくれるお客さんに日頃の感謝を込めて毎年振舞っているものです。

朝市で販売している地元の食材を使い、業務用の鍋で200食分用意されたいものこ汁は、わずかな時間で見事に完売。この日、朝市を訪れた皆さんは、思いがけない温かなもてなしに顔をほころばせ、秋の味覚に舌鼓をうっていました。

地域の自慢が勢ぞろい

■増田地域じまん市（増田）

11月４日、５日の２日間、増田ふれあいプラザ駐車場を会場に横手市増田地域じまん市が開催されました。

これは、増田地域の魅力を内外にアピールするため、昨年までの産業祭に替わる行事として行われたもので、はじめて行われた「軽トラ市」では、両日合わせて27台の軽トラックがお目見え。荷台がそのままお店へと早変わりし、農産物や加工品、日用品などがフリーマーケット方式で販売されました。また、魚のつかみ取りや冬に備えた除雪機械の展示なども行われ、多くの来場者でにぎわいました。

自慢の品が荷台にずらりと並んだ「軽トラ市」

世代を超えて文化交流

■第29回山内文化祭（山内）

10月28日・29日の２日間、山内体育館を会場に山内文化祭が開催されました。

盛りだくさんな内容で毎年秋の恒例となっているこの行事。「山内の美と宝と夢を求めて」をテーマに、絵画や陶芸、小中学生による作品の展示が行われたほか、各種サークル、同好会等による芸能発表でにぎわいました。また、会場には子どもたちも楽しめる無料体験コーナーや絵本の読み聞かせコーナー、昔懐かしい気分を味わえる縁日なども設けられ、家族連れで楽しむ姿が見られました。

子どもたちに大人気のネイチャークラフト（自然工作）コーナー

切れやすいりんごの皮を相手に悪戦苦闘

りんごの魅力満載

■第６回平鹿りんご味覚まつり（平鹿）

11月３日、ときめき交流センター「ゆっぷる」を会場に「平鹿りんご味覚まつり」が開催されました。

この催しは市やＪＡ、りんご生産農家などで組織する実行委員会が主催。会場では、りんご狩り体験や直売のほか、皮むき競争などが行われ、大勢の来場者でにぎわいました。特に、１個のりんごの皮を１分間でどれだけ長くむけるかを競う皮むき競争では、166㌢の好記録で地元りんご農家の柴田隆一さんが優勝。会場は、声援を送る人々の熱気と、りんごの甘酸っぱい香りに包まれていました。

利用者が一生懸命に日頃の練習成果を披露

横手の四季を表現

■３施設合同ふれあい祭（大雄）

10月29日、大和更生園、すこやか大雄、ユー・ホップハウスの３施設合同による「ふれあい祭」が行われました。舞台発表が行われた大和更生園のステージでは、仮装した施設利用者たちが横手の四季を表現。横手城の桜やかまくらなど自然豊かな風景を上手に演出し、観客から温かな拍手が贈られていました。

また、会場内では利用者による作品の展示即売や食堂、屋台、売店などが立ち並び、食べ物や農産物を買い求める来場者たちでにぎわっていました。

郷土の文化を後世に

■民謡碑除幕式（雄物川）

10月27日、船沼地区の民謡碑建設記念文化園で、民謡碑の除幕式が行われました。

民謡碑は、首都圏の民謡愛好家や雄物川地域出身者らで組織された「羽後の民謡碑建設委員会（小野茂代表）」が日本民謡の大切さと、ふるさとの伝統文化を後世に残そうと建立したもので、碑文には、地域の伝統芸能である岡本新内と、同代表が地域の風景や歴史、実体験を素材に作詞作曲した民謡４曲（雄物川筏流し唄、秋田木挽き唄、秋田山唄、秋田松坂）が刻まれています。

関係者らが参加して除幕式が行われました

だし、練習で使用する場合のみ。演出効果など、本番環境での使用は対象となりません。
■問合せ　横手市民会館☎32―3136

催し

横手市合併記念・各地域巡回公演「鳥海劇場」

市内7劇団による演劇の巡回公演です。
十文字公演
■日時　11月25日(土)午後6時30分開演
■場所　十文字文化センター
■内容　「めくらぶんど」・劇団かんじき「蜘蛛の糸」・劇団3人の会
横手公演
■日時　12月9日(土)午後6時30分開演
■場所　かまくら館
■内容　「Radio!」・劇団Hozzy&Nancy
■問合せ　横手市民会館☎32―3136

横手市食生活改善推進協議会設立記念講演会

食生活・健康ジャーナリストの砂田登志子さんを講師に迎え、講演会を開催します。適切な食生活を実現できるよう、「食育」について考えてみませんか。
食生活改善推進員の活動報告やパネル展示、みそ汁の試飲会も行います。
■日時　12月15日(金)午後1時
■場所　平鹿生涯学習センター(旧平鹿町中央公民館)
■演題　「地域・学校・家庭で取り組む楽しい食育」～幸福は口福から～
■問合せ　横手市食生活改善推進協議会事務局(市福祉環境部保健衛生課内)☎35―2185

感染症予防講演会・小児救急講演会

日常生活における感染症予防や、子どもの急病時の対応策などについて講演を行います。
■講師　齋藤紀先さん(市立横手病院呼吸器科長)
「子どもの急病時！こんな時どうするの？」
■講師　石橋貢さん(横手市医師会理事)
■日時　11月30日(木)午後1時30分～3時50分
■場所　秋田ふるさと村
■問合せ　県平鹿地域振興局福祉環境部企画調整班☎32―4005

横手市民会館ホール使用料半額のお知らせ

横手市民会館では、芸術文化振興の拠点として市民の皆さんの文化活動を支援するため、次の期間中、ホールを使用料半額で提供します。ぜひこの機会に、広い舞台を使って芸術を表現してみませんか。
■対象　横手市生涯学習サークル登録団体及び市内高校
■期間　平成18年12月1日(金)～平成19年2月28日(水)
■内容　ホール使用料(設備使用料も含む)を50％減免。ただし、練習で使用する場合のみ。演出効果など、本番環境での使用は対象となりません。
■問合せ　横手市民会館☎32―3136

おしらせ

市雇用創出協議会セミナー

元日本一の営業マンと食のプロを講師に迎え、販売促進や食のマーケットについての講演会を行います。
「自分の持ち味を活かすプラス発想と行動」
■日時　11月21日(火)午後6時30分
■場所　横手プラザホテル
■講師　岡田和芳さん(H.&S.コンサルタントシステムズ代表)

「全ては現場で起きている」～食の現場の裏話

■日時　12月6日(水)午後2時
■場所　松典会館
■講師　草場佳朗さん(草場企画代表)
■問合せ　市雇用創出協議会事務局(市産業経済部商工労働課内)☎45―3990

知事と語ろう「イキイキ職場支援フォーラム」

仕事と家庭生活を両立できる環境づくりについて、知事と市長と事業所の代表者がとことん語り合います。
旭化成の女性活用の専門部署であるEO推進室長、田中恭代さんによる講演もありますのでご期待ください。
■日時　11月22日(水)午後1時～3時30分
■場所　横手セントラルホテル
■申込期限　11月21日(火)
■参加費　無料
■申込先　市総務企画部男女共同参画推進室(本庁南庁舎内)☎35―2158

行列のできる道の駅のカリスマ社長が講演します！

「あ・ら・伊達な道の駅」社長で、宮城県旧岩出山町長の佐藤仁一さんを講師に迎え、アイデア満載の行動戦略や体験談をお話いただく講演会を開催します。
■日時　11月26日(日)午前10時
■場所　十文字文化センター
■申込期限　11月22日(水)
■申込先　市総務企画部男女共同参画推進室(本庁南庁舎内)☎35―2158

「市指定文化財展」

勾玉や佐竹義重の甲冑など、市内各地区の指定文化財を展示する特別展を開催します。
■期間　11月25日(土)～12月28日(木)　毎週月曜日は休館日
■時間　午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
■場所　雄物川郷土資料館
■入館料　大人100円、小・中学生は無料
■問合せ　雄物川郷土資料館☎22―2793

横手南中学校PTA講演会

秋田県立大学の飯島泰男教授を講師に迎え、親子で考える環境問題についての講演会を行います。
■日時　12月1日(金)午後1時30分
■場所　横手南中学校体育館
■問合せ　横手南中学校☎32―3108

横手市民バドミントン大会

横手市バドミントン協会主催による大会です。バドミントンでさわやかな汗を流しませんか。
■日時　12月17日(日)午前8時30分
■場所　横手清陵学院中学校・高等学校第一体育館
■参加資格　市内在住の方、または市内に在学している方(中学生以上)
■申込先　横手体育館☎33―2102

横手養護学校「児童生徒作品展」

織物(さをり織り)や湯のみ茶碗など、児童生徒が毎日の学習の中で制作した作品や、学習の様子を紹介した写真パネルを展示します。
■期間　12月1日(金)～7日(木)
■場所　秋田銀行横手西支店
■問合せ　横手養護学校総務部☎33―4166

相談　12月10日は「人権デー」 人権・困りごと特設無料相談所を開設します

12月4日から10日までの「人権週間」の一環として、横手人権擁護委員協議会と秋田地方法務局横手支局では、無料人権相談所を開設します。家族・夫婦関係、いじめ等の困りごとがある方はご相談ください。相談は人権擁護委員が担当し、秘密は厳守します。

期日	地域	場　所	地区担当人権擁護委員名
12/4(月)	大雄	大雄地域福祉センター	滝澤　將弘　戸田　吉広
12/5(火)	雄物川	雄物川コミュニティセンター	佐々木栄一　上法　快晴 高橋　雅子
	十文字	十文字文化センター	寺田　奎子　信太　耕三 堀田　厚　高橋ミヨノ
	山内	山内公民館	佐藤　新一　藤原　信子 高橋　藤悦
12/6(水)	平鹿	平鹿生涯学習センター(旧中央公民館)	戸部　英二　佐野　洋子 菊地　廣　瀬田川美知子 神原　英夫
	大森	大森コミュニティセンター	朝川　順子　内藤　義明 嵐田友之助
12/7(木)		増田地区多目的研修センター	内藤新左衛門　石川　冴子 織田智恵子
12/8(金)	増田	ふれあいセンターかまくら館	椎名　靖典　阿部　三琅 松井　敏博　藤井　誠悦 七尾喜美代　前澤　弘子 畑　恒子　野上　英二郎

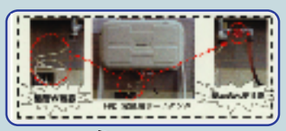
※ 時間は午前10時から午後3時まで
■問合せ　秋田地方法務局横手支局☎32-5153

募集　市からのお知らせ 臨時介護士・臨時介護員の募集

市では、市内の老人福祉施設で勤務していただく臨時介護士・臨時介護員を募集します。
■募集人員　臨時介護員8人
■賃　　金　日額6,700円～
■勤務時間　早番・普通・遅番・夜勤の交代勤務
■勤 務 地　大森・雄物川地域ほか市内各老人福祉施設
■資　　格　介護福祉士・ホームヘルパー2級以上をお持ちの方、及びホームヘルパー2級以上を取得する意欲のある方
■雇用期間　平成19年3月1日から1年間(再雇用もあり)
■申込期間　11月15日(水)～30日(木)
■申 込 み　市総務企画部人事課(本庁南庁舎内)　35-☎63まで
履歴書を提出してください

～家庭用ホームタンクを取り扱いの皆さんへ～ 給油中の油漏れ事故にご注意ください

冬が近づくにつれ、灯油を使う機会が多くなります。毎年この時期になると、不注意による油こぼれや、小分け中の油もれ事故が多発しています。次のことに十分注意して、事故防止につとめましょう。



●**油流出事故の主な原因は**
・ホームタンクの閉め忘れ
・落雪、除雪作業による配管の破損

●**油流出事故を防ぐには**
㈰ホームタンクから油を小分けする時は、絶対にその場を離れないようにしましょう。
㈪落雪から給油管を保護したり、給油管の場所がわかるようにして破損防止に努めましょう。
㈫油漏れを防止するため、ホームタンク等の定期点検を行いましょう。

●**万が一、油の漏えいに気づいたら**
灯油を側溝や河川等に流出してしまったら、すみやかにお近くの消防署、消防分署、市役所各地域局へご連絡ください。

■問合せ　市福祉環境部環境課(大雄庁舎内)
☎35-2184、または各地域局市民生活課へ

新横手市の観光を考える意見交換会

東京都と大阪府の観光アドバイザーを迎え、県外からみた横手についての意見を市民と語り合う意見交換会を開催します。アドバイザーの方の講演も行いますので、ぜひご来聴ください。

■日時　12月1日(金)午前9時30分（講演会＝午前10時、意見交換会＝午前10時50分）
■場所　横手セントラルホテル
「～足元の恵み～ 地域の魅力再創造計画」
■講師　谷口正和さん(東京都)
「天満宮商店街でアンケート 横手って知ってまっか」
■講師　佐藤博文さん(大阪府)
「素晴らしい文化と伝統を持つ美しい日本国」
■講師　塚田圭一さん(東京都)
■問合せ　市産業経済部観光物産課（増田庁舎内）☎45―5519

B&G体験クルーズ

小笠原諸島への体験クルーズを通して、「海・船・自然」について学び、豊かな人間性を養いませんか。

■実施期間　平成19年3月26日(月)～31日(土)
■対象　小学校4年生～中学校3年生（若干名。応募者多数の場合は抽選とします）
■内容　船や洋上生活、海洋や自然環境に関する学習など
■参加費　8万円～
■募集期限　12月13日(水)
■問合せ　B&G海洋センター☎42―0487

子育て支援セミナー

元気な子どもを育成するため、地域全体で子育てを考えてみませんか。セミナーでは、読み聞かせサークルの皆さんによるお話や大森山動物園の小松守園長を迎えての講演を行います。

■日時　11月19日(日)午後1時～3時30分
■場所　平鹿生涯学習センター（浅舞公民館）
■申込期限　11月15日(水)（託児サービスあり）
■申込・問合先　県平鹿地域振興局福祉環境部児童・障害者班☎32―3294

募集

国有林モニター募集

東北森林管理局では、国有林の管理・経営に皆さんの声を役立てていくため、モニターを募集します。詳しくはお問い合わせください。

■任期　平成19年4月～平成20年3月
■内容　アンケートへの回答、国有林モニター会議への出席など
■募集人数　48人
■募集期間　12月1日(金)～28日(木)
■詳細　http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/
■問合せ　東北森林管理局 国有林モニター係 ☎018―836―2274

相談

秋田県福祉相談センターへご相談ください

高齢者や障害者、児童・女性に関する福祉や心の健康などについての相談にお答えします。

■開設時間　午前8時30分～午後7時（土日祝日は午前10時～午後6時30分）
■相談ダイヤル　018―831―2940
■問合せ　秋田県福祉相談センター☎018―831―2301

十文字の皆瀬川に白鳥がやってきました

― 不足しているエサの提供にご協力ください ―

十文字の皆瀬川白鳥飛来地では、10月14日に7羽が観測されてから順調に飛来数が増え、現在150羽近くが観測されています。

しかし、毎年白鳥のエサが不足することから、不要になった二番米やもみガラなどの提供をお願いしています。ご提供いただける方は、飛来地そばの休憩所までお持ちください。なお、十文字地域内は受け取りにまいりますので、ご連絡ください。

■問合せ　十文字地域局産業振興課☎42-5116

Duo Yamaguchiコンサート

～ピアノとチェロの素敵な時間～

海外や日本で活躍されている、ピアニストの山口博明さんとチェリストの山口真由美さんによる演奏をお楽しみください。

■日　時　12月2日(土)午後6時30分開演
■場　所　かまくら館(託児あり、要申込)
■入場料　一般1,000円・高校生以下500円(前売り)
■申込・問合せ　市教育委員会生涯学習課（雄物川庁舎内）☎22-2155

いどばたプラザ

市民主催の催し等をお知らせするコーナーです

「秋田盆おどりサミットin増田」

【増田盆おどり保存会主催】

県内を代表する各地域の盆踊り関係者が一同に会し、お互いの活動を紹介し合い交流を深めます。また、保存・継承・育成の大切さを確認し「盆踊り」を核とした地域活性化に向けての方向性を話し合います。

県内各地域の盆踊りも披露されますので、ぜひご参加ください。

■日　時　12月3日(日) 正午開演
■場　所　増田ふれあいプラザ
■入場料　500円
■チケット購入及び問合先
増田町観光協会☎45-5515

1.基調講演
「21世紀における伝統芸能の保存継承の在り方について」
～伝統行事「おわら風の盆」を活かしたまちづくりと商標登録について～
◆講師　越中八尾観光協会事務局長　布谷 博之さん
2.県内各地域の盆踊りの披露
・西馬音内盆おどり（羽後町）・毛馬内盆おどり（鹿角市）
・横手市内盆おどり（横手・山内・増田）
3.パネルディスカッション
「伝統芸能を明日のまちづくりにつなげて」
各出演団体代表者や関係者等が参加し、話し合います

マンドリン&ギターデュオコンサート「響き」

マンドリンとギターが奏でる、弦の「響き」をお楽しみください。

日　時●12月2日(土)午後2時開演
場　所●サンサン横手
入場料●シングル券2,000円、ペア券3,000円
問合せ●荻田さん☎32-9438

パーキンソン病患者さんのためのフラワーアレンジメント教室

日　時●12月3日(日)午後1時から
場　所●かまくら館（定員：先着10人）
持ち物●花きりハサミまたは料理用ハサミ
申込期限●11月24日(月)（受講料：無料）
問合せ●日本イーライリリー☒ 渡辺さん
☎022-712-8060

歌の好きな人集まれ！思いっきり歌声喫茶

「喜びの歌」や「マイウエイ」など数曲を予定。

日　時●12月7日(木)午後7時開演
場　所●レストラン煉瓦屋(寿町)
参加費●1,000円(軽食付き)
問合せ●レストラン煉瓦屋☎33-2811

自然を愛する皆さんの集い

年末特別企画として、北京料理やシャンソンの世界をお楽しみください。

日　時●12月17日(日)午後1時開演
場　所●レストラン煉瓦屋(寿町)
問合せ●レストラン煉瓦屋☎33-2811

akiponワールド作品展

大仙市在住の小野崎晶さんによる絵画作品を展示します。

期　間●11月8日(水)～29日(水)（入場料：無料）
場　所●南部シルバーエリア ミニミニギャラリー
問合せ●南部シルバーエリア☎26-3880

とっぴんぱらりのプー　第70回昔語りの会

今年最後の昔語りの会です。囲炉裏を囲んでふるさとの「昔っこ」を楽しみませんか。

日　時●11月25日(土)午後1時30分から
場　所●こうじ庵(鍛冶町)
問合せ●尾形さん☎32-0630

真美会「秋の洋画展」

油絵を中心とした作品約50点を展示します。

期　日●11月25日(土)～28日(火)
時　間●午前10時～午後5時(28日は午後4時まで)
場　所●かまくら館5階（入場料：無料）
問合せ●掛札さん☎32-5545

淑玲(しゅうれい)さんと楽しく北京の家庭料理

中国北京出身の淑玲さんと友人たちを講師に迎え、北京の家庭料理講習会を行います。

期　日●11月18日(土)午前10時～午後2時
場　所●女性センター(旧働く女性の家)
申込先●NPO法人グローバルよこて
黒埼さん☎32-0077㏋32-0401

市民の皆さんからの「いどばたプラザ」への情報提供をお待ちしています。各種催しの参加者募集などにご活用ください。

このページは読者の皆さんから寄せられた声にふれあう場です。いろいろな声をお寄せください。

孫からのおみやげ 青ベコ

増田「N・T」さん 78歳

新潟の小学校6年生男の孫より会津若松に修学旅行に行ったおみやげにと赤ベコならぬ青ベコの、それはそれは小さいキーホルダー2個が郵送されてきた。どんな高価な宝石より立派でありがたい。小さいけどがんばって首を振る青ベコ。けなげで、いじらしくもありかわいい。早速孫にありがとうの返事を送った。せん別は、正月に遊びに来たときにお年玉と一緒にあげようと準備しておくつもりです。

秋の山々を満喫

大雄「横手大好きママ」さん 50歳

秋雨が上がった10月9日、栗駒登山の日、須川温泉駐車場に着いて登山者の数にビックリ。前日までの雨で足元はドロドロで足場を選んでの登山でしたが、名残ケ原からは紅葉が美しく素晴らしい光景が私達を迎えてくれました。分岐点から登山路は風衝地帯、言葉通り強風にあおられてやっと頂上着いても、強風と寒さで昼食をとるのもままならない状態でしたが、頂上達成感を皆で喜び記念写真をパチリ！　登山と紅葉を満喫した一日でした。

一人ひとりが横手の宣伝マン

横手「横手が好きでたまらないみっちゃん！！」さん 72歳

今年は各地を歩く機会が多く、訪れたどの県も特色を発揮しようと独自性を打ち出していることがよく伝わってきました。旅先から帰路に着き家に戻ってくるたびに、わが郷土横手もとても素敵な場所であると強く感じています。市民が自信を持って、景観や食べ物、そして優しい人柄を全国、そして世界へ発信していきたいものです。

故郷を誇りに新たなスタート

横手「うさこ」さん 18歳

就職試験を終え、都会に就職する事になった私。この長閑な場所とお別れしなくてはならないことが、私にとって最大の試練です。市報を見ていると、「私はこんなに素敵な場所で育ったのか…」と自分の町の素晴らしさに初めて気づきました。都会にあこがれ、本当に大切なことに気づくことができなかった私。この町の人々の温かさを心に刻み、そして、大切なことを気づかせてくれた私の郷里を誇りに思い、来年からの新生活をスタートさせたいと思います。

短いお便りから将来に対する大きな希望が伝わってきました。「本当に大切なことに気づくことができなかった…」決してそんなことはないはずです。多くの若者が抱くあこがれと不安は、大人として、そして社会人として大きく成長していく過程で必要となる大切な経験です。うさこさんの都会でのご活躍をお祈りしています。

アスパラパウダーのすすめ

雄物川「夢みるおばさん」さん 51歳

私は奈良県の阿騎野（あきの）農協から45g入りのものを購入して、パンやお菓子などに愛用しています。いろいろ種類も多く、少しずつ購入して楽しんでいます。野菜は、多く作りすぎて捨てている分も多いと思うので、アスパラだけでなく、トマトやにんじん、いろいろパウダーにして売ってみてはどうでしょうか？料理やお菓子等で使ってみてもほとんど味はしないし、体にもいいと思います。

思いがけず見つけた姉の名

横手「ジュピター」さん 50歳

以前、市報の「読者の声」に千葉県にいる姉の便りが載せられていたことがありました。地元の友達が毎月送ってくれていたようで、姉は故郷の情報を色々と知り、市報により郷愁も感じていたようです。遠くに住む姉の名前を見つけた時は驚くと同時にうれしくなって、さっそく電話したことを思い出します。

駅前ににぎやかさを

横手「ネコママ」さん 45歳

横手駅周辺の再開発がいろいろ考えられていますね。私が女子高生の頃は、駅前にまだ人の行き来があった様に思います。高齢化して2人暮らしになり、足がなかったら買物ができないなんて事になったら大変です。駅前くらいなら歩いていけます。量り売りしてくれる店も助かります。せっかくの駅、にぎやかさをとり戻して欲しいです。

地球に優しいことしてますか

増田「A・S」さん 56歳

地球温暖化のニュースを耳にするたびに、子供たちの将来を心配してメールをすると、「おふくろ大丈夫？」と返信。なんにもわかっていない！　ガッカリです。この春から、ミニテニスに行く時は、自転車を使う事にしました。近所への用事は歩いて。健康的、経済的、地球に優しい、まさに一石三鳥です。お父さん、タバコは歩いて買いに行きましょう。それから、お願いですから車のエンジンをかけたままスーパーで買い物をするのはやめて下さい。自分たちの地球は自分たちで守りましょう。

求められる地域の支え

神奈川県「K・S」さん 63歳

大雄出身ですが、田舎には老母が一人で住んでおり、ゴミ出しが難儀の様です。8月、10月と実家に行って来ましたが、私のいる間はゴミは出せませんでした。悩んでいる老人は多数いると思います。そこで、玄関先までゴミを取りに来てくれたりするボランティアの方がいると助かるのですが。中・高生の方でも協力していただけないかと思います。

地域のつながりが薄れ、ともすればお隣さんの顔、名前も知らない昨今。都会だけと思いきや、横手のような地方都市でも例外ではなくなってきています。ゴミ出しボランティアは、お年寄りの負担を軽減するだけでなく、地域の安全確認など効果は大きいと思います。良い案がありましたらぜひ教えてください。

「横荘線復活」考えに賛同です

東京都「元大森のいっこさん」さん 57歳

10月15日号の市報に「合併の証に横荘線の復活を」というお便りがありましたが、アクセスが悪いのは確かです。地元の方々は車が足となっているでしょうが、たまに遊びに行き、年老いたおじさん、おばさんに会いたくても簡単にはいきません。誰かに頼むかレンタカー。友人に会うにも大変です。もっと、楽きくなったのです。もっと、楽に使える公共の便利なアクセスをお考え下さい。由利本荘の方にも行ってみたいですね。

フレーフレー横手！！

横手「みゆママ」さん 38歳

先日、中学の娘と初めて母娘水入らずで東京へ行ってきました。私も何年ぶりの東京で、子供のように心をワクワクしながら旅立ちました。東京へ行って一番感じた事は、空気が悪いという事。新幹線から降りたとたん胸が苦しくなり、緑が恋しくなりました。今回の旅で、お金があれば美味しい物も楽しい事も出来るけれど、お金で買えないものもたくさんある事を学べました。改めて横手の良さを感じた旅でした。若者もたくさんいて、活気のある横手であって欲しいと願います。

国体に向け高まる興奮

十文字「まゆのすけ」さん 41歳

ホッケーのリハーサル大会の見学に行ってきました。家の近くの陸上競技場が、グレードアップしてきれいに会場が作られていて、大会のスケールの大きさを感じました。本当に熱い躍動感を見て、すごい感動しました。来年の本大会、楽しみです。

市報よこて
読者プレゼント
Present!

お便りをくださった方の中から抽選で横手市の特産品等をプレゼントします。

※当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます

【締め切りは平成18年12月8日（当日消印有効）】

今が旬

●完熟蜜入り「ふじ」特秀（平鹿）

市内でも有数のりんごの生産量と質を誇る平鹿町馬鞍地区。奥羽山脈のふもとで日差しをたっぷり浴びて育った園主自慢の完熟蜜入り「ふじ」特秀20個入り1箱を3名様

【提供】かねさく果樹園
まぐらりんご生産直売所
☎25-4400

新発売

●本格そば焼酎「蔵螢」（増田）

増田地域の豊かな自然の恵みの中で栽培されたそばをふんだんに使用。熟練農家の手で丹精込めて育てられ、そば独特の風味を醸し出す本格そば焼酎「蔵螢」を5名様に。（関連記事18ページ）。

【提供】（株）増田町物産流通センター
☎55-5051

PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS

POST CARD

0 1 3 - 8 6 0 1

お手数ですが
50円切手を
お貼りください

横手市前郷字下三枚橋163

横手市役所
秘書広報課 行

フリガナ

◎ご氏名

◎年齢／　　歳　　◎性別／　男　・　女

◎ペンネームまたはイニシャル

※記入がない場合、実名で記載させていただきます。

◎ご住所　□□□-□□□□

電話（　　）　　－

◎ご希望のプレゼントを○で囲んでください

1．完熟蜜入り「ふじ」　2．本格そば焼酎「蔵螢」

キリトリ線

匠 TAKUMI（たくみ）

【其の十三】

道の駅さんない「農香庵（のうかあん）」料理長

田代（たしろ）　博（ひろし）さん（56歳・山内）

地元産素材と技の融合

原料に地元山内産のそば粉と水だけを使用し、つなぎを一切用いない十割そばが人気の道の駅さんない「農香庵」。その味を求めて繰り返し訪れる客も多い。

「山内地域の気候、風土が産み出した素材に間違いはない。刻々と変化する素材の状態を見極め、最高の状態でお客様に提供するのが自分の役目。料理界の辞書に完璧という文字はない。一人でも多くの方に満足していただけるよう試行錯誤の毎日ですよ」

主役である良質な素材を生かすも殺すも巧の腕次第。地元直送の素材を使い、本場仕込みの巧の技を注ぎ込んで刻まれた一本一本は贅沢の極みである。

「料理界に足を踏み入れたのも、そば打ち職人として今この場に立っているのも、私の人生における偶然の一つでしょう」

シンプルであればあるほど技術が問われる料理の世界、豊富な経験を積んだ巧がたどり着いたのは故郷の土地が産む究極なまでにシンプルな料理「そば」であった。穏やかながら、随所にこだわりを感じさせる巧とそばとの出会いは、運命だったに違いない。

昭和25年、山内村生まれ。18歳で故郷を離れ、料理の世界に入る。横浜、箱根など、各地で修行を重ねた後、知人の勧めで移り住んだ長野県でそばと出会う。34歳で帰郷後、ホテル、飲食店などで調理師として従事し、平成13年から農香庵料理長。

本場信州で培った確かな技

思えば遠くへ来たもんだ

No.13

横手地域

柴田 康裕（こうゆう）さん（40歳）

長野県長野市出身。
父、母、妻、長女の５人家族

康裕さんは、長野県長野市の出身。祖母の実家である洞雲寺（とううんじ）（黒川）が後継者不足となったために後を継ぐことを決意。平成３年に横手に移り住み、６００年以上の歴史を持つ同寺の副住職を経て昨年10月に37代目住職に就任しました。この地で暮らしはじめてから、今年で15年目を迎えています。

故郷の長野市についてたずねると「善光寺や、スキー場で有名な白馬も近く、観光の盛んな土地です。横手と同様、盆地のため周囲には山々がそびえ立ち、四季折々の山の恩恵を受けて育ちました」と思い出を語ります。横手の印象については、「歴史や伝統を大切にしていて、信仰心の厚い土地。特に黒川地区は農村部のせいか、昔からのコミュニティーがしっかりと根付いていますね」と、住職らしい視点ものぞかせます。

一方で、伝統を大切にしすぎるあまり、閉鎖的な印象を受けることもあったといいます。

「元気な地域づくりを目指し、創造的に前進していくことも場合によっては必要です。自分もできる限りその手助けをしていきたいですね」地域の未来を見すえ、目を輝かせて語る姿に心強さを感じます。

長野県北部に位置する県都で、千曲川に沿って広がる平野部を取り囲むように北信濃の山並みが連なっています。年間を通してさわやかな高原気候で、文化財も数多くあります。

■面積 738.51㎢
■人口 383,316人
■世帯 144,591世帯

読者プレゼントにご協力を

市報よこてでは、市内業者の皆さんへ「読者プレゼント」へのご協賛をお願いしています。

横手市内にあるたくさんの特産品や名産品を市報を通して市民の皆さんに知っていただくと共に、市内全世帯に配布される広報紙を活用した商品の宣伝に、ぜひ市報よこてをご活用ください。

■連絡先　秘書広報課：広報広聴担当（☎35－2162）

編集後記

◆歯の健康を特集した。食べる・話す、すべての生活の基本である歯。大切にしなければいけないのに、おろそかにする。歯医者は怖い、口の中はみせたくない。そんな意識から改革していかなければならないと痛感しながらの執筆だった。（卓）

◆取材の帰り道、ふと気付くと体のあちらこちらにのさばり付くその名も「のさばりこ」。生き延びるために必死でしがみついてくる。憎らしいが前向きに考えてみた。「自分を頼りにしてくれる相手がいる。たとえそれが植物の種だろうと」。（孝春）

◆特集の取材を通じて、歯の大切さを痛感しました。さっそく、家に帰って子どもたちの歯を仕上げ磨きしていたら、むし歯を発見!!。治療したばかりなのに…。自分も最近硬い物を食べていると奥歯が痛む…。早く歯医者に行かないと。（克彦）

◆気が付けば編集後記も２年目に入りました。先輩から広報のいろはを教わりながら、現場で感じた面白さ、難しさを綴ったこの１年。改めて見返してみると…。まだまだ未熟ですが、１サイクルを終えて変わった自分を見せなければ。（小百合）

◎お便りをお寄せください。

次代に継ぐ我らが至宝

よこて遺産

THE YOKOTE HERITAGE
No.13

【大森地域】

市指定天然記念物
銀杏の木台の大銀杏

大森地域上八沢木地区にそびえ立つ、イチョウの巨樹「銀杏の木台の大銀杏」。樹齢600年を超え、樹高が25メートル、幹周りが6．6メートルもあります。

かつてこの銀杏の木台には保呂羽山天国寺という真言宗の古寺があり、応永元年（1394）に舟渕玄鑑が曹洞宗普及のためこの地に巡歴してきた時には、住職もなく廃寺同然でした。玄鑑は里人と相談のうえ、曹洞宗護法山曹渓寺を開山し、山形蔵王の安養寺から持って来たイチョウの木をこの寺の庭に植えて、安養寺の末院である証拠としました。

その後、曹渓寺は北野地区に移され、イチョウの木だけが残されています。

銀杏の木台の大銀杏は、昭和51年に大森町の天然記念物に指定されています。

市報よこて
No.27
平成18年11月15日号
発行／横手市役所　☎0182-35-2111（代）
編集・デザイン／総務企画部秘書広報課
〒013-8601　横手市前郷字下三枚橋163　☎0182-35-2162　FAX0182-33-6061
ホームページアドレス／http://www.city.yokote.lg.jp/

PRINTED WITH SOY INK
R100
古紙配合率100%再生紙と大豆油インキを使用しています